

# The Japan Dickens Fellowship

## NEWSLETTER Spring 2009

Office of Professor Eiichi Hara  
Department of English Literature and Culture  
Tokyo Woman's Christian University  
2-6-1 Zenpukuji, Suginami-ku, Tokyo 167-8585  
E-mail :  
<http://www.soc.nii.ac.jp/dickens/>



2009年6月30日



中京大学での大会開催は1999年以来。地下鉄の駅から大学まで直結していて大変便利になっていました。

### 2009年春季大会報告 Spring Conference 2009 at Chukyo University, Nagoya

2009年度の春季大会は6月20日（土）、中京大学（名古屋市昭和区八事）にて開催されました。参加者は約50名超。応募者多数の中から選抜された2名が研究発表を行いました。シンポジウムは、久しぶりに外部からの卓越した研究者お二人をお招きして行われ、大変刺激的な内容でした。あまりに充実していたために、時間が足りず、今後のプログラム編成の際に考慮しなければならないでしょう。大会準備にあたられました梅正行、武井暁子の両氏には深く感謝申し上げます。

#### 第一部 研究発表

司会 宮丸裕二（中央大学准教授）



田村 真奈美（豊橋科学技術大学准教授）

#### 「ディケンズと慈善」

田村氏の発表の主題は、一見すると論じ尽くされた感のあるものです。これをどう料理するのか、興味をそそられました。内容は、慈善活動は女性が公共圏に参入する機会を与えたものであり、『荒涼館』におけ

る「慈善」への攻撃・諷刺を批判的に捉え直すというものでした。期待に違わず、古いテーマを実に新鮮な切り口で分析したもので、堅実な手法も印象的でした。



市川 千恵子（釧路公立大学准教授）

#### 「厄介なる遺産—『ハード・タイムズ』と『北と南』から『素敵な仕事』へ」

市川氏の発表もまた「二つの国民」という古いテーマを、現代との関係の中で捉えて、斬新な見方を提示するものでした。ディケンズとギaskellの産業小説が、ポスト・ヴィクトリアン小説ともいべきデイヴィッド・ロッジの作品で「厄介なる遺産」としていかに継承されているかを明らかにしました。シンポジウムのテーマとも照応するものでした。

#### 第二部 シンポジウム

##### 「ディケンズと現代作家たち」

司会 原 英一（東京女子大学教授）

講師 桑野 佳明（流通経済大学教授）

##### 「C・ディケンズとR・キプリング」

講師 齋藤 兆史（東京大学准教授）「C・ディケンズとV・S・ナイポール」

講師 梅 正行（中京大学教授）「C・ディケンズとベン・オクリ」



今回のシンポジウムは、梅氏を中心となって企画されたものです。梅氏の積極的な働きかけによって、桑野氏、齋藤氏という卓越した研究者をお迎えすることができました。ディケンズが後の世代の作家たちに絶大な影響を与えてきたこと

は周知の事実ですが、私たちディケンズは20世紀以降の小説について、意外に無知です。キプリング、ナイポール、オクリといった作家たちは、アジア、カリブ海、そしてアフリカというポストコロニアル文学世界で活動するのですが、そこにディケンズはどのような形で息づいているのでしょうか。3人の講師は、いずれも事前に周到な原稿を準備していただき、実に刺激に満ち、豊かな内容によって、私たちに大いなる勉強の機会を与えてくれました。とくに若手のディケンズたちには、今後の新たな研究の方向についての示唆に富んでいたものだったことでしょうか。このシンポジウムを契機として、ディケンズ研究が20世紀文学にまで拡大していくことが大いに期待されます。



### 懇親会

大会の後は学内の「エルバ亭」での懇親会。いつものようにフェロウシップ精神の横溢する会でした。その後、名古屋中心部の栄に移動しての二次会、さらには？次会まで、歓談は尽きることなく続きました。



### 諸報告

(1) 既報の通り、日本支部事務局は、支部長の転勤に伴って、2009年4月から東京女子大学に移転しております。研究室環境の変化によって、このニュースレターもモノクロ印刷になりましたが、ウェブ版は従来通りカラーです。

(2) 『年報』第32号の編集について。

※論文投稿は6月10日で締め切りました。3篇の投稿があり、現在査読担当理事により審査中です。

※自由投稿記事・ニュースの締切は8月20日とします（支部長宛に「可能なかぎり電子メールで」お送りください）。

#### 日本におけるディケンズ研究書誌作成について ご協力をお願い

日本におけるディケンズ研究書誌を作成するため、会員（および会員以外の方の）2008年度の著書・論文等の報告にもご協力をお願いいたします。ウェブ担当補佐の松岡さんまで電子メールでお届けいただければ幸いです。できれば以下のウェブフォームをご活用くださるようお願いいたします。

<http://form1.fc2.com/form/?id=31664>

(3) 支部長からの提案（継続審議）について

昨年の総会では、以下2点の「支部長からの提案」について審議されました。

1 現在開かれている春季大会と秋季総会を一本化し、年1回の大会開催とする。

2 ディケンズ生誕200年(2012年)を記念して、全文英文による論文集を日本支部として編集・刊行する。

このうち英文論文集の刊行については了承されましたが、総会・大会の一本化については結論を得られず、継続審議となりました。今年度の秋季総会において、再度ご審議いただきますので、あらかじめお考えおきください。

### 生誕200年記念 ディケンズ博物館改修事業への寄付のお願い

すでにお願いの文書をお届けしておりますが、ロンドンのディケンズ博物館では、生誕200年記念事業 Great Expectations の一環として、大規模な増改築を計画しています。同博物館のフロリアン・シュワイツァー館長から日本支部に寄付の協力要請がありました。生誕200年ということもあり、日本支部としては最大限の協力をしたいと思います。

一般会員はお一人1口5000円×2口（1万円）以上のご寄付をぜひお願い申し上げます。

シュワイツァー氏から届いたリーフレットを同封しますので、ご覧ください。

### 2008年度秋季総会予告

2009年度秋季総会は、理事会にて種々検討の結果、10月17日(土)に東京女子大学（東京都杉並区）で開催される予定となりました。

なお、今回は研究発表の募集は行いませんので、ご了承ください。

ディケンズ・フェロウシップ日本支部事務局

〒167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1 東京女子大学 英語文学文化専攻 原英一研究室内

電子メール：

電話：03-5382-6348（原支部長直通）